

* 竹田市感染症情報(竹田市独自集計) *



令和8年第21週 (5月18日～5月24日)

ヘルパンギーナについて

今週は、調査医療機関より1名の報告がありました。大分県全体では定点あたり0.42人で、先週の0.14人から増加しました。

ヘルパンギーナは、主に乳幼児に多い「夏かぜ」の1つで、初夏～夏に流行します。主な症状は、突然の発熱、のどの痛み、のどに水疱ができる、食欲不振、全身のだるさ、頭痛などがあります。脱水症状や高熱が続く、けいれんがあるなどの場合は、医療機関へ相談しましょう。感染経路は、経口感染や糞口感染(便と一緒に排泄されたウイルスが口に入って感染すること)、接触感染、飛沫感染で、集団生活で広がりやすいため、注意が必要です。予防には、日頃から手洗い・うがいなどの感染対策を行うことが重要です。特に、発症した子どものおむつ交換後は、流水と石けんでしっかり手を洗いましょう。

水痘(水ぼうそう)について

今週は、調査医療機関より1名の報告がありました。大分県全体では定点あたり1.31人で、先週の1.25人から増加しました。

大分県では、5月8日に水痘の流行注意報が発令されました。全国的にも過去5年間の同時期よりも報告数がやや多い状態が続いている状況です。

水痘は、いわゆる「水ぼうそう」のことで、発熱やかゆみを伴う発しんが全身に出現する感染症です。空気感染、飛沫感染、接触感染で広がり、感染力が強いため、家庭のほか保育施設や学校等では注意が必要です。医療機関を受診する場合は、事前に連絡して医療機関の指示に従いましょう。

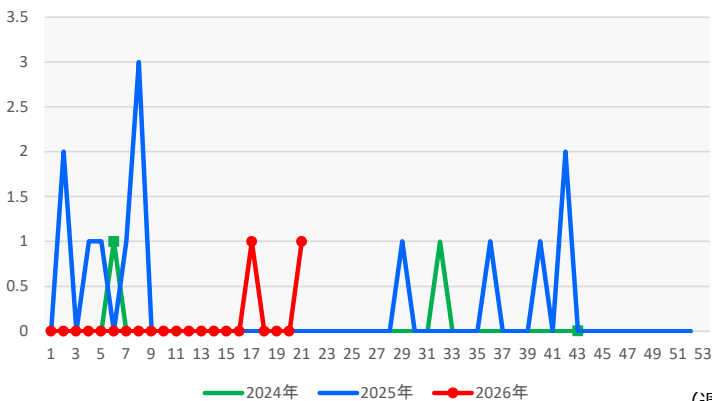
重症化の予防には、ワクチン接種が有効です。定期接種は、1歳の誕生日の前日から3歳の誕生日の前日までの方で、この期間に2回の接種を行うこととなっています。未接種の方は予防接種を受けましょう。



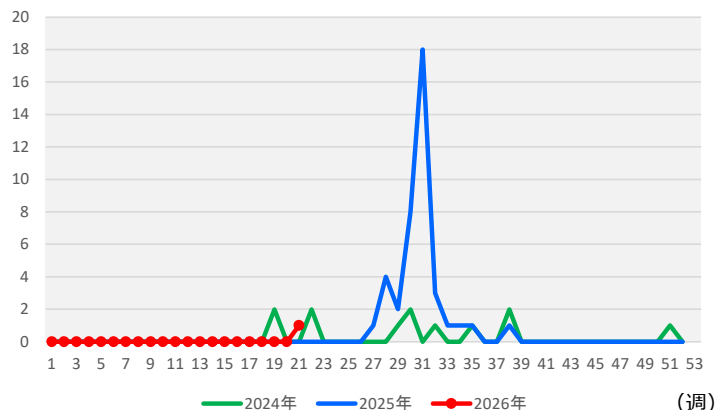
(第21週) (調査医療機関8か所の総患者数)

疾患名 年齢	インフルエンザ			新型コロナウイルス感染症	RSウイルス感染症	咽頭結核熱(プール熱)	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘(みずぼうそう)	手足口病	伝染性紅斑(リンゴ病)	突発性発疹	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	マイコプラズマ肺炎	麻しん(全数報告)	風しん(全数報告)	百日咳(全数報告)	つつが虫病(全数報告)	
	A型	B型	不明																	
0歳													1							
1～3歳												1								
4～6歳																				
7～9歳																				
10～14歳									1											
15～19歳																				
20歳以上								2												
今週								2	1			1	1							
70歳以上(再掲)																				
先週					1			1												

(人) 水痘竹田市8医療機関総数



(人) ヘルパンギーナ竹田市8医療機関総数



< 4つのお願い >

1. 「基本的な感染対策」で感染予防！

室内の換気、手洗いの励行、咳エチケット、
場面に応じたマスク着用など

2. 「ワクチン接種」で重症化予防！

高齢者や基礎疾患のある方は、特に接種をおすすめします

3. 「体調おかしいな？」は休んで感染の拡大防止！

少しでも体調に異変を感じたら、ちゅうちょせず休みましょう
コロナは5日間、外出を控え療養を

4. 検査キット、解熱剤等の常備薬を準備！

体調不良時の自宅検査・療養に備え、早めに準備しておきましょう



夏の感染症対策ガイド

出典：厚生労働省ホームページ

TOPICS 夏を安全に楽しもう！ 感染症対策ガイド

感染対策基本のキ

1 流水と石けんでの手洗い

2 よく触れる物のアルコール消毒

3 可能な範囲でのマスク着用

からだに不調を感じたら

医療機関に相談しましょう

感染症の初期は発熱や咳などで発症しますが、猛暑で体力や免疫力が低下すると、感染リスクも高まります。「変だな？」と思ったら、医療機関に相談してください。

感染症についての情報はこちら



4

ヘルパンギーナ

(特徴)

発熱と喉の痛みが主な症状の夏かぜの一種です。合併症として、熱性けいれん、特に乳児では脱水症、まれですが小児では髄膜炎や心筋炎などに注意が必要です。発症後4週間後までは、便からウイルスが排泄されるため、おむつ交換の際はしっかり手洗いしてください。

(感染経路)
感染経路は、便からの感染を含む接触感染と飛沫感染です。

4

ヘルパンギーナ



5

手足口病

(特徴)

口の中や、手足などに水疱性の発しんが出る感染症です。こどもを中心に感染し、多くが数日間のうちに改善しますが、まれに重症化することがあり注意が必要です。

(感染経路)

飛沫感染、接触感染、糞口感染(便の中に排泄されたウイルスが口に入って感染)が知られています。

INDOOR

2

新型コロナウイルス感染症

(特徴)

令和5年5月に感染症法上の「5類感染症」に移行されましたが、リスクの高い感染症に変わりはありません。引き続き基本的な感染対策を心がけ、自分や周囲への感染を防ぎましょう。

(感染経路)

患者から排出されるウイルスを含む飛沫、さらに小さな水分を含んだ粒子(エアロゾル)の吸入、感染者の目や鼻、口に直接目に接触することにより感染します。

3

咽頭結膜熱

(特徴)

アデノウイルスの感染により、発熱、のどの痛み、結膜炎といった症状が数日続く、こどもに多く見られる感染症です。感染者が使ったタオルなどにウイルスを含んだ目やに、唾液、鼻水が付着していることもあるので、タオルの共用は避けましょう。

(感染経路)

主な感染経路は飛沫感染、接触感染です。

1

RSウイルス感染症

(特徴)

RSウイルスによる呼吸器感染症です。生後6か月以内の乳児、基礎疾患のある小児や高齢者がかかる可能性があるので、注意しましょう。

(感染経路)
主に接触感染、飛沫感染によって感染します。

2

新型コロナウイルス感染症

1

RSウイルス感染症



© media - iStockphoto.com

時岡 史明



健康と生活術を届ける感染症対策専門家
医療従事者 医師 感染症専門医

「夏かぜは、こどもがかかる」と思われがちですが、夏かぜの原因となるウイルスの型には多くの種類があり、1シーズンに向もかかる人も少なくありません。また、近年夏期に増加傾向がみられている「RSウイルス感染症」や「新型コロナウイルス感染症」もまだまだ注意が必要です。いずれの感染症も手洗いや咳エチケット、換気などの基本的な感染対策が重要です。発熱やせきに加えて、呼吸が苦しい、食事や水分が摂れなかったといった症状が見られたら、すぐに医療機関に相談しましょう。